

〔図2〕

## イノベーションを生み出す戦略

### 「イノベーションの7つの機会-7つの源泉」

1. 予期せざるもの	意外なところにネタがある。見て、聞いて、質問して知覚しよう。
2. 調和せざるもの	通念との不調和によるギャップがある処にネタが。価値観、認識、プロセス等のギャップの存在がネタに。
3. プロセス・ニーズ	全体のプロセスの中で、ある1点が欠けている処にネタがある。それを解決することがイノベーションになる。
4. 産業や市場の構造変化	IoT, EC, インバウンド、円安など様々な産業構造や市場の変化が起こっています。その変化がチャンスです。
5. 人口構造の変化	少子高齢化、人口減少、単身世帯の増加などイノベーションの機会はたくさんあります。
6. 認識の変化	事実そのものに変化がなくても、事実に対する見方（認識）が変わることを言います。
7. 新しい知識	新しい技術を使ったイノベーションこそイノベーションの王道です。しかし新しい技術を使ったイノベーションはリードタイムが長く、異なる知識を合体させたイノベーションが多く、ハードルが高いのです。

「現場のドラッカー」及び「究極のドラッカー」より引用

高い

信頼性と  
確実性

低い

内部要因

外部要因

## 体系的なイノベーションを成功に導く要件(1)

### 『起業家精神の2つの原理』

- ドラッカーは「イノベーションと起業家精神は、努力して身に着け、実践できるものである」と言います。「成功したイノベーションの殆どは平凡であり、変化を利用したにすぎない。つまりイノベーションのノウハウとは変化に関するノウハウだ」と言います。
- ドラッカーは起業家精神の原理は次の2つだとします。
  - ① 変化を健全かつ当然のものとしてみること。
  - ② 新しいことを行うことに、社会的な価値を見出すこと。
- この2つの原理について、ドラッカーは次の様に言います。
  - ✓ 「起業家とは変化を探し、変化に対応し、変化を機会として利用する者のことです。そして、企業は変化やイノベーションの機会を意識的に、組織的に探究する必要がある。」
  - ✓ 「変化をマネジメントする最善の方法は、自ら変化を創り出すことである。」
  - ✓ 「未来は明日作るものではない、今日作るものである。主として、今日の仕事との関係のもとに行う。意思決定と行動によって、今日作らなければならない。」
  - ✓ 「成功への道は、自らの手で未来を創ることによってのみ開ける。自ら未来を創ることはリスクが伴う。しかし乍ら、自ら未来を創ろうとしない方がリスクは大きい。」

(注) 体系的イノベーションの「体系的」とは

- 個々の理論が、相互に関連して全体として纏まり、一定の原理を核に整然と整理された理論集合体を「体系」と言います。
- ✓ 「ドラッカー経営学」は、一つの纏まった体系として捉える必要があります。「体系」の類似例は「法体系」です。

「現場のドラッカー」及び「究極のドラッカー」より引用

## 体系的なイノベーションを成功に導く要件(2)

### 「5つのなすべきこと」と「2つの重要なカギ」

#### 5つのなすべきこと

- ドラッカーは、体系的なイノベーションとは何か、又、体系的なイノベーションを成功させるための「5つのなすべきこと」を示します。
- 以下5つのなすべきことです。
  1. まず機会の分析から始める。
  2. 目を開き、関心を持ち、耳をそばだてる。
  3. シンプルなイノベーションにする。
  4. 小規模に始める。
  5. トップに立つことを狙って行う。

#### 〔5つのなすべきことの「解説」〕

まず、「7つの機会」の分析を始めることです。分析に止まらず“Perception”（気づき）が必要なのです。その為には、顧客の所へ行き、目を開き、関心を持ち、耳をそばだてることが大切です。成功したイノベーションはシンプルです。従って小規模から始めるべきなのです。最後は、戦略として、最初からトップになることを狙わねばなりません。

#### 2つの重要なカギ

- 成功に導く要件の締めとして、2つの重要なカギと、その背景にあるドラッカーの言葉を見てみましょう。
- 重要なカギ（1.と2.）とドラッカーの言葉（「」）。
  1. イノベーションを行う組織は、既存事業と切り離しておかなければならない。
    - ✓ 「新しいものの創造への取り組みと、既存のものの面倒は、同時に行えない。イノベーションのための仕事は、新しいものを専門とする独立した部門に任せなければいけない。」
  2. 明日を創るためには、昨日を捨てなければならない。
    - ✓ 「イノベーションの戦略において第一に重要なことは、古いもの、死につつあるもの、陳腐化したものを計画的かつ体系的に捨てることである。イノベーションを行う組織は、昨日を守るために時間と資源を使わない。昨日を捨ててこそ、資源、特に人材という貴重な資源を新しいもののために開放できる。」

「現場のドラッカー」及び「究極のドラッカー」より引用